行って良かった！ フクシマ連帯キャラバン

３月１４日から２１日の日程で「２０１９フクシマ連帯キャラバン（第６回目）」を実施しました。キャラバン隊は１４日に東京を出発、福島、新潟、茨城、東京と各地で脱原発を呼びかけ、最終日の２１日、東京・代々木公園に到着しました。全港湾からは１９名、全体で４１名が参加しました。３月２１日には東京・代々木公園内において「さようなら原発全国集会」が開催され、全港湾からは１１０名、集会全体では１万人以上が参加しました。

機関紙「港湾労働」でも団長の武田さんが「人と核は共存できない」と述べていましたが、キャラバン参加者からも「是非ひとこと言わせて！」とのリクエストがありましたので裏面に掲載をしました。ご一読をお願いします。

伏木支部青年部救命講習学習会を開催 応急処置をすれば助かる確率が２倍に

２月２３日、支部青年部として伏木消防署の協力を得て、救命救急講習を開催しました。講習においては、救急車を呼んでから目的地に到着するまで平均７分～８分間と時間を要する中で、人体に応急処置をすれば助かる確率が約２倍になると学習し驚きました。

実践においては、心肺蘇生法やＡＥＤの活用方法を学ぶことができました。青年部の仲間は、ＡＥＤの使用方法や心肺蘇生法のやり方など知らない組合員が大半であったので、たいへん勉強になりました。

質問時間を設け、組合員からは交通事故などでの人命救助の対処の方法や作業現場における出血時の対処方法など、現場作業における事故発生時に緊急対処方法など、身近に発生する事故事例に基づいて質問をしました。

今回の講習を参加者だけで終わらせるのではなく、家族や組合員の仲間にも伝え、救急処置の重要性を訴えて行きます。（伏木支部青年部長　若林　駿）

小名浜地区労中小運輸ブロック交流会 トラックの労働条件で学習会を開催

３月２日１８時より、いわき市鹿島町「紫」にて中小運輸ブロック交流会が開催されました。小名浜地区労から、現在２４単組１２００名が登録されています。そして、そのほとんどが上部団体をもたないトラックや工場構内の２次下請け企業です。各単組とも長距離運転手や三交代などがあり実際には人が集まらない状態でした。組合員の意見を聞きながら土曜日に行うこととし学習会の時間を短くして進めることを３年前から進め現在は３０名ぐらい集まるようになりました。今回はトラックの労働条件で学習会を開催しました。（東北地本書記長　矢代正人）

ブレイクタイム 0012

第0012号 2019年4月15日発行　全日本港湾労働組合　発行日：毎月15日（ただし、1月15日号、8月15日号、9月15日号は休刊）

フクシマ連帯キャラバンに参加して

ひとこと言わせて！

滝本春仁　八戸通運支部

自分に出来る事は少ないかも知れませんが、若い人達に自分が経験した話をし、福島の原発事故を忘れないように、また１日でも早く原発を廃炉にするために、これからも活動を続けていきたいと思いました。

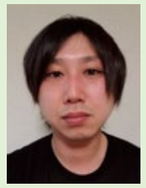
石鉢雄哉　八戸通運支部

自分が参加した３日間で「原発は廃炉にするべきだ」という考えを改めて強く抱きました。たくさんの貴重な意見や話を聞くことができ、良い経験をさせていただきました。この経験を無駄にせずより良い活動が出来るように頑張っていこうと思います。

松田祐樹　新潟支部

５日間の行動で多くの事を知り、感じる事ができとても勉強になりました。福島の事故を絶対に風化させない事、全国にある原発の稼動を許さない事。今後の活動に繋げると共に、地元新潟での行動にも今後積極的に参加をしていきたいです。

松川　豊　八戸通運支部



脱原発運動が少しでも国に影響を与え、国はもっと国民一人一人の事を考えてもらいたいと思いました。今後も全国の仲間と共に協力して頑張っていきたいと思います。

木村貴弘　ひたち支部

フクシマ連帯キャラバンに参加し、原発は要らないと改めて感じました。街頭アンケートでは、原発の存在を知らない子供達に出会いました。風化が進む原発事故を次の世代に繋ぎ、一致団結して脱原発に向けて頑張っていきましょう！

田中俊介　酒田支部

放射性廃棄物が仮置き場に山積し、まだまだ考えて行かなくてはいけない課題がたくさんあると思います。また、原発事故の話をしっかりと家族に伝え、全国の原発が廃炉になるように活動していきたいと思います。

羽賀達也　名古屋支部

初めて参加しましたが、いわき市にある「いわき放射能市民測定室たらちね」で職員の方から聞いた「子供たちに食べさせる食品が本当に安全な物か知りたい」という言葉が忘れられません。子供を想う親の気持ち、そして何より放射能という見えない恐怖と未だにたたかっているいわき市の人達の現状を思い知りました。今後、事故を忘れていく世代が増えていくことを実感し、これからも運動を続けていくことが大切だと思いました。

今堀尚樹　八戸通運支部

震災から8年たった今でも事故収束の目途がたたず、汚染水や放射性廃棄物の問題も増え続けているので、国はもっと深刻な問題として動かなければいけないと思います。キャラバンを通して、原発を再稼働させたくないと強く感じましたし、この活動を通して普段接することない人達と一緒に活動ができ、すごく貴重な経験になりました。

薄井栄人　ひたち支部

フクシマ連帯キャラバンは全港湾だけでなく様々な労組の青年層の人たちと一緒に活動ができ、繋がることの大切さを学べました。日本から原発がなくなるまで仲間たちと力を合わせて闘っていきたいと思います。

渡辺敬介　直江津支部

避難者への補償や原発事故の収束、原発再稼働反対、脱原発社会の実現のために、まず地元で行動し、そして風化させないために、たくさんの人に原発のおそろしさを伝えていきたいです。

赤木　敬　名古屋支部

参加した動機は「福島連帯キャラバンとは何か？」を知りたかったからです。今回のキャラバンで帰宅困難区域を視察し、自治体への要請行動を経験し、原発事故の恐ろしさや事故後の影響を目の当たりにし、原発は一刻も早く廃炉にすべきだと感じました。キャラバンのような活動は原発問題を野放しにしないためにも必要と感じましたし、事故を風化させないためにも続けるべきと思います。大切なのは自分たち大人が原発に対して正しい認識をして判断すること、そして周りの人や次の世代の人へ伝えていくことだと思いました。

武田陽介　小名浜支部

８日間参加し、事故当時から思っている「人と核は共存できない」という気持ちがさらに強くなりました。家族、友達に原発に対しての思いなどをしっかりと伝えることが大事なのではないかと感じました。全国の原発の再稼働を阻止し、廃炉になるまでキャラバン行動は続けていきたいです。

古内厚志　ひたち支部

脱原発社会への道のりは長く険しいものですが、フクシマ連帯キャラバンの運動が全国に広まれば、必ず原発を無くすことができると信じています。道を切り拓くために我々が先頭に立ち、団結し訴え、闘い続けることが必要です。

那須野智広　新潟支部

国は専門的な言葉を使い、何が本当で嘘なのか言わず、原発は「安全で必要」としか言いません。この先、原発の何が危険で、事故を起こすとどうなるのかを誰が聞いても分かるよう伝え「わからない」という人がいなくなる様取り組みをしていきたい。